

港のたより



(一社) 寒地港湾技術研究センター
COLD REGION PORT AND HARBOR ENGINEERING RESEARCH CENTER



暮れなずむ函館港(撮影:平成25年6月)

Contents

ごあいさつ	2	お知らせ	
行事報告		平成25年度 みなとのお祭り・イベント情報	19
第1回定時総会の開催	2	クルーズ船入港予定(2013年)	22
港湾ニュース		平成25年度 漁港漁村の各地域のイベント情報	23
室蘭追直漁港 沖合人工島(Mランド)供用式典報告	4	編集後記	25
小樽港第3号ふ頭及び周辺再開発の取組状況について	6		
苫小牧港開港50周年記念事業	7		
函館漁港船入潤防波堤修復工事報告会を開催	8		
第56回(平成24年度)北海道開発技術研究発表会受賞論文(港湾部門)の概要について	9		
雪氷期の津波沿岸防災対策の検討について	11		
北海道国際輸送プラットフォームの平成25年度の取組について	12		
「北海道マリンビジョン21」の改訂について	14		
羽幌港中央ふ頭の供用について	15		
シリーズ			
登別・白老地域マリンビジョン協議会からの報告	17		

vol. 105
2013.7.30



ごあいさつ

一般社団法人 寒地港湾技術研究センター 代表理事・理事長 水野 雄三

寒地港湾技術研究センター（CPC）は、平成 25 年 4 月 1 日から一般社団法人として新しいスタートを切ることとなりました。

当センターは、昭和 62 年の設立以来 26 年間にわたって、産学官の技術力を結集したシンクタンクとして、北海道の港湾・漁港の整備や利用促進に役割を果たして参りました。この間、平成 19 年には「確認審査室」を、平成 23 年に「寒地港湾地域開発研究所」を設立し体制強化を図ってきております。

この度の移行に伴い、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づき、総会、理事会の役割を明確にして、併せて常任・技術・広報の常設委員会を会長の諮問機関として位置づけ、効果的・効率的に事

業を推進できる体制を整備したところです。

当センターの「積雪寒冷地の氷風雪・波浪の制御及び利用に係る港湾技術、寒冷地における港湾の利活用や港湾を核とする地域振興に関する調査研究に努めるとともに、港湾の施設の技術基準に関する確認業務を行い、もって積雪寒冷地において冬に強い港湾の整備を促進し、我が国の港湾の発展に寄与する。」という目的の推進のため、役職員一同、今まで培ってきた経験、ノウハウ、人的ネットワークを活かして一層尽力していきます。

会員の皆様には、重ねてご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

行事報告

第 1 回定時総会の開催

（一社）寒地港湾技術研究センター

平成 25 年 6 月 6 日（木）、今年 4 月 1 日から一般社団法人としてスタートしました、（一社）寒地港湾技術研究センターの第 1 回定時総会を京王プラザホテル札幌において会員 317 名（出席者 141 名、委任状 176 名）の出席のもと開催しました。

総会は土岐会長の挨拶に続き、国土交通省港湾局技術企画課原田 卓三技術基準審査官からご挨拶をいただき、次いで北海道開発局栗田 悟港湾空港部長から平成 25 年度北海道の港湾及び空港整備事業についてのご説明があり、その後、「総会の目的である事項」

の審議に移り原案どおり承認されました。

「総会の目的である事項」

- 報告事項
平成 24 年度 事業報告の件
- 決議事項
第 1 号議案 平成 24 年度 決算の件

今回の定時総会が、一般社団法人として会員皆様方のご意見を賜る最初の場となりました。今後も役職員

一同、未来を見据えた「北のみなとづくり」の推進を通して、皆様方に親しみあるセンターを目指して参りますので、これ迄同様に、ご支援、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



原田技術基準審査官の挨拶



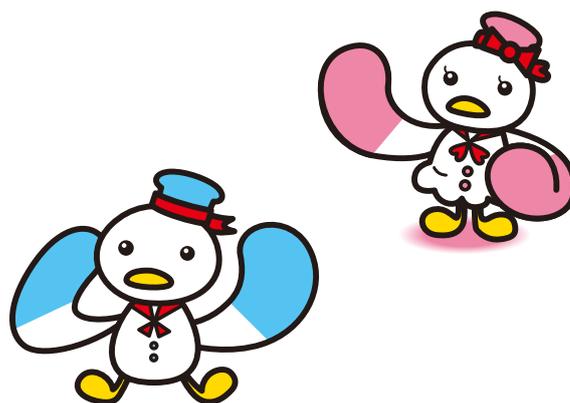
栗田港湾空港部長の挨拶



第1回定時総会の全体模様

役員名簿

役職	氏名	勤務先・役職	備考
会長	土岐 祥介	国立大学法人 北海道大学 名誉教授	非常勤
理事長	水野 雄三	(一社) 寒地港湾技術研究センター	常勤
理事	恩村 裕之	北海道経済連合会 専務理事	非常勤
理事	柏葉 導徳	苫小牧港管理組合 専任副管理者	〃
理事	小林 利章	(一財) 日本気象協会 北海道支社長	〃
理事	佐見 誠	(一社) 日本埋立浚渫協会 北海道支部 支部長	〃
理事	白石 悟	北海道工業大学 教授	〃
理事	田村 亨	国立大学法人 北海道大学 教授	〃
理事	藤田 博章	北海道港湾振興団体連合会 会長	〃
理事	宮木 康二	(一財) 北海道建設技術センター 理事長	〃
理事	宮崎 英樹	北海道港湾空港建設協会 会長	〃
監事	谷野 賢二	東海大学 札幌キャンパス 教授	非常勤
監事	山田 悦郎	(一社) 北海道建設業協会 港湾・漁港部会積算専門委員会 委員	〃



NEWS 港湾ニュース

■ 室蘭追直漁港 沖合人工島(Mランド)供用式典報告

室蘭開発建設部

1. はじめに

平成 25 年 4 月 24 日に、室蘭追直漁港沖合人工島(通称:「M ランド」)が完成し、供用式典が室蘭追直地域マリンビジョン協議会の主催のもと開催され、関係者約 160 名が参加し完成を祝いました。追直漁港は、昭和 50 年代の 200 海里体制導入等に伴う沖合漁業の情勢変化や漁港に都市漁村交流機能を求める市民の声に対応するため、北海道マリンビジョン 21 に基づく、「つくり育てる漁業」と「ふれあい漁港」を基本コンセプトに、平成 5 年 3 月に室蘭市が主体となり、追直漁港地域整備構想(M ランド構想)が策定され、国直轄で平成 8 年から工事が始まり 17 年の歳月を経て完成しました。



写真 1 追直漁港全景写真(右下にあるのが M ランド)

2. 供用式典

式典では、はじめに、主催者である室蘭追直地域マリンビジョン協議会会長の若佐誠登別室蘭青年会議所理事長より「追直漁港の中核施設となる M ランドの供用開始に伴い、今後は室蘭地域マリンビジョン協議会としても、さかなの港町として、M ランドを中心に室蘭産の水産物の PR や高付加価値化への取組み、さらにはふれあいの場として、記念イベントの開催を図り学習の場としての利活用を実施していきたい。」

青山剛室蘭市長からは、「漁業関係者のみならず、市民待望の M ランドが完成し、本日ここに供用式を迎えました。追直漁港は市街地に隣接する漁港であり、まちの大きな財産として市民も大いに期待している。今後は、安心安全な水産物の提供をとおして、室蘭ブランドの確立と普及を期待する。また、追直漁港はイカ釣り外来船や底曳網漁業の基地にもなっており、国・道等行政が一体となった漁港整備に取り組んでいきたい。」と、漁港整備の感謝と今後の期待を述べられました。続いて、来賓を代表して、堀井学衆議院議員が祝辞を述べられました。

その後、来賓紹介、祝電披露、室蘭港湾事務所の森信幸所長より完成報告があり、完成セレモニーとして、若佐室蘭追直地域マリンビジョン協議会会長(写真 2 左端)、堀井代議士(写真 2 中央)、青山市長(写真 2 右端)の他、国土交通省大臣官房小西明審議官、水産庁漁港漁場整備部整備課中泉昌光課長、北海道マリンビジョン 21 促進期成会会長脇紀美夫羅臼町長ら計 13 名によるテープカットが行われその後、施設を利用する漁船の船長計 6 名を代表して西沢正治船長へ花束が贈呈され、完成を祝いました。



写真 2 沖合人工島供用式典テープカットの様子

3. 概要と課題

第3種追直漁港は、沖合底引き網漁業や道内外のイカ釣り漁業、サケ定置網漁業などの沿岸漁業の生産流通拠点漁港で、平成22年の漁業生産量は1.7万トン、生産額は25億円で北海道内の漁港では有数の水揚げを有し地域水産業にとって重要な役割を果たしています。

養殖漁業では、追直漁港の水面を活用したクロソイ養殖や室蘭港崎守地区におけるホタテ稚貝生産を中心に行われておりました。しかし、追直漁港の養殖水域の静穏度や水質の問題、室蘭港崎守地区の狭隘な作業環境の問題などにより、非効率な漁業活動を余儀なくされ、経営を圧迫している状況にありました。このため、ホタテ貝養殖やクロソイ養殖といったつくり育てる漁業の推進を支援するとともに、室蘭市のMランド構想の実現に貢献するため、北海道開発局室蘭開発建設部が平成8年度より室蘭市及び室蘭漁業協同組合と連携して漁港整備を進めてきました。



写真3 1階部 陸揚げ用3m屋根付き岸壁

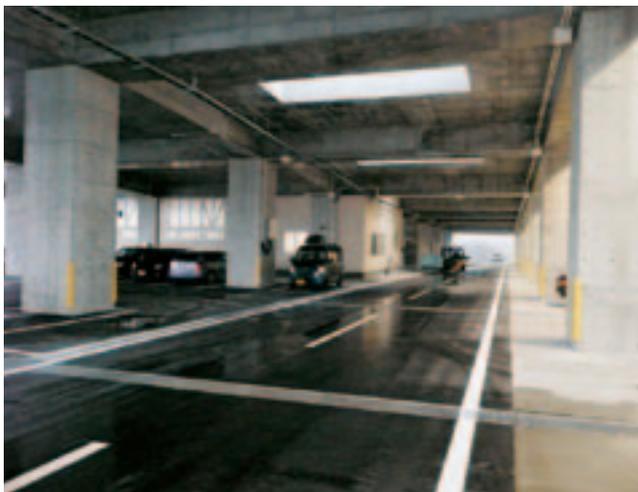


写真4 1階部 人工地盤内部の様子（日光が入る構造）

4. 沖合人工島（Mランド）の整備

追直漁港沖合人工島（Mランド）は、養殖水域の拡大、良質な海水の確保、沿岸環境の保全に対応するため、水深15m、陸地から300m沖合に築造された島で、人工地盤による2階建て構造になっています。主な整備は、1階部が水産物の陸揚げ岸壁（水深-3m）145m（写真3）、静穏水域を確保する為の防波堤210mのほか、防波護岸285m、埋立土量14万 m^3 による漁港施設用地7,000 m^2 を、人工地盤の2階部には漁港施設用地6,800 m^2 を確保しています。また、幅員7mの橋梁262mにより人工島と新港地区とを連結し、人工島内には幅員6mの道路420mを整備しています。この他、室蘭市は、施設内に漁業用水施設を整備し、室蘭漁業協同組合は、海水取水施設、排水処理施設、ホタテ養殖・蓄養桁、クロソイ生け簀を整備しました。

技術的な特徴として、水質の良好な外洋水深15m地点に人工島を築造して養殖水域3万 m^2 を確保するため、防波護岸は波力を低減させるスリットケーソン構造を採用し、さらに、養殖水域の水質保全に配慮するため、橋梁の下部をジャケット式橋脚構造（写真3橋梁下部参照）としています。

5. 今後の取組

供用後の追直漁港沖合人工島（Mランド）は、ホタテやクロソイ養殖の他、毛ガニ籠、たこ箱、サケ定置網漁業などが予定されており、人工島の完成に伴い、水産物の品質向上や魚価の安定化が可能になります。

さらに、7月13日には、完成記念イベントの開催が予定されており、イベント以降は2階部分（写真5）を一般市民へ解放するため、市民の憩いの場、ふれあいの場の創出としても期待されています。



写真5 2階部 漁具干場や駐車場及び憩いの場

■ 小樽港第3号ふ頭及び周辺再開発の取組状況について

小樽市産業港湾部 港湾室事業課

小樽港では、近年、クルーズ需要が増大している中、クルーズ客船の更なる寄港増大に向け、様々な取組みを進めています。

特に、平成23年11月に外航クルーズで日本海側拠点港に選定されたのを契機に、平成24年4月には伏木富山港や京都舞鶴港と共に環日本海クルーズ推進協議会を設立、本年5月には、新たに境港、秋田県の3港が加入して、広域連携を生かしたクルーズ振興に取り組んでいるほか、本年4月には、小樽市のほか、関係行政機関、港湾団体、経済団体、北後志地域の観光協会、民間企業等の参加を得て小樽港クルーズ推協議会を設立し、クルーズ客船寄港時の観光メニューの充実や歓送迎体制の強化を進めて行くこととしています。

この様に、クルーズ振興におけるソフト面での充実を図る一方、ハード面においても、小樽港におけるクルーズ客船の主な着岸場所となっている第3号ふ頭の環境整備にも取り組んできています。

第3号ふ頭は、JR小樽駅から真直ぐ見通すことができる場所に在り、徒歩でも約10分の距離にあることから交通の利便性が非常に高く、また、周辺には小樽運河をはじめとする多くの観光施設があることから、クルーズ客船の着岸場所としては、大変魅力的なふ頭ですが、現状の施設では、最大でも6万トンまでのクルーズ客船しか係留することが出来ないほか、既存物流機能との輻輳等の課題も残っています。



JR小樽駅前から見た第3号ふ頭に着岸する客船

このため、大型クルーズ客船の着岸を可能とし、ターミナル機能導入する等、旅客ふ頭としての機能強化を図るとともに、周辺部も合わせて、水辺を生かした交流拠点としての整備を目指すこととし、平成24年から第3号ふ頭及び周辺再開発計画の作成を進めています。

この再開発計画の策定にあたっては、関係者や市民等から広く意見を伺うため、学識者、港湾関係団体や市民団体、公募市民等からなる「第3号ふ頭及び周辺再開発ワークショップ」を設置し、平成24年7月の第1回ワークショップ開催以降、にぎわいある国際交流空間の創造をテーマとして計10回に亘って検討を進めていただきました。

ワークショップでは、他港の旅客船ふ頭の事例研究、旅行代理店のクルーズ担当者の社員を講師に招いての意見交換、また、バーチャルリアリティーを用いた導入施設の配置等について、熱心に議論していただき、本年2月25日、検討内容を提言書として市長に提出いただきました。



ワークショップでの検討の様子



再開発計画提言書でのイメージ図

また、当該地域の再開発については、市の経済界も高い関心を持っており、小樽商工会議所が独自に、第3号ふ頭及び周辺部の再開発案を第2期港湾振興プロジェクト答申書として取りまとめており、5月7日に市もその内容について説明を受けています。

今後、これらの提言書や答申書の内容を参考にし、国や港湾関係者の意見を伺いながら、小樽市としての再開発計画を取りまとめていきます。

■ 苫小牧港開港 50 周年記念事業

苫小牧港管理組合 企画振興課

苫小牧港は、世界初の掘込み式港湾を造るため、砂浜と原野に挑んだ先人の偉業により、昭和 38 年 4 月に第一船を迎え開港しました。現在、北日本最大の流通港湾として、北米やロシア・東アジア等との経済交流や、国内外の産業経済活動を支える役割を担っております。

今年は、開港 50 周年の節目に当たり、苫小牧港の歴史を振り返り、改めて先人の功績や港湾の果たしてきた役割を国内外に広く周知するとともに、グローバル経済や国際物流の動向に迅速に対応する国際拠点港湾として新たな価値や魅力の創出を目指し、苫小牧港の未来を自ら切り開く意識と発信力を高める契機とするため、「苫小牧港開港 50 周年記念事業実行委員会」を設置し、記念事業を実施いたします。

苫小牧港開港 50 周年 開港記念日セレモニー

苫小牧港に第一船が入港してから丸 50 年を迎える記念の日として、実行委員会では 4 月 25 日に各種記念事業の幕開けを告げるイベントとして、北ふ頭キラキラ公園において「開港記念日セレモニー」を開催しました。

50 年前の入船式の時間が午前 11 時であったこともあり、今回も 11 時へ向けてのカウントダウンを行い、カウントダウン後に花火の打ち上げ、在港船汽笛一斉吹鳴、タグボート・海上保安部巡視艇によるカラー放水と風船の掲揚を行いました。



市長挨拶



タグボート・海保巡視艇カラー放水



幼稚園児を迎えるのセレモニー



色彩り豊かな風船

当日は風が強く寒い中でしたが、幼稚園児、港湾関係者、行政関係者、一般市民など、約 500 名の方に来ていただき、盛況のうちにセレモニーを終了することが出来ました。

これからの記念事業について

この開港 50 周年記念のメイン事業を紹介します。

帆船「海王丸」が、7 月 12 日から 16 日まで苫小牧港に寄港します。

多くの貨物船などを日常的に目にする市民にとって、帆船を目の当たりにすることは、新鮮で、かつ興味深いことであり、広い海洋に思いをはせ、開港 50 周年記念として、苫小牧港への帆船寄港について、かねてより航海訓練所に要請をしていました。帆を張るセイルドリル、一般公開など市民の皆様にとりましては、きっとワクワクすることでしょう。

同じく、全国の「みなとオアシス」による、Sea である海の食材を使った全国大会、「第 3 回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会 in 苫小牧」を 7 月 13 日と 14 日に、北ふ頭キラキラ公園において開催します。これは、港を活用した街づくりを目指す「みなとオアシス」が位置する地元の港で水揚げされた海産物などの名産品を用いてつくられ、「ぜひ多くの人に味わってほしい」と勧められる飲食物を全国各地の「みなとオアシス」から参加していただき、開催いたします。

大会には、全国から約 20 チームが参加し、グランプリを目指して味自慢を競います。

期間中は、会場で「記念演奏会」も開催し、皆さん

で開港 50 周年を祝っていただきたいので、たくさんのご来場をお待ちしています。

詳細等につきましては、「苫小牧港開港 50 周年」のホームページをご覧ください。

URL : <http://www.jpmtmk.com/tomakomaikou50th/index.html>

本誌の発行が、メイン事業の実施後となり、開催のご案内が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。なお、行事内容につきましては、次号において掲載する予定にしております。

(編集事務局)

■ 函館漁港船入潤防波堤修復工事報告会を開催

函館開発建設部 函館港湾事務所

1. はじめに

函館港湾事務所では、平成 23 年度より、近代土木の先駆者である廣井勇博士の調査・設計・監督により整備が進められた函館漁港船入潤防波堤の修復工事を進めてきました。平成 25 年 3 月、当該修復工事が完成したことから、本年 5 月に地域関係者等を招いて報告会を開催しました。

2. 函館漁港船入潤防波堤の概要

1858 年に国際貿易港として開港後、函館港では通商貿易、海運業が発展するなか、漂砂の影響により泊地水深が浅くなる、大型船舶の修理施設が確保できないなどの課題を抱えていました。

これらの課題に対処するため、1896 年（明治 29 年）廣井博士の監督の下、「函館港改良工事」が着手され、防砂堤やドック用地のための埋立等とともに、泊地に当たる船入潤と防波堤（L = 158m。北側防波堤：L = 104m、南側防波堤：L = 54m）が整備され 1899 年（明治 32 年）に竣工しました。

南北の防波堤は本体及び胸壁部は石積ですが、その基礎部分には港湾最初期のコンクリートブロックが使用されております。

3. 修復工事の概要

昭和 26 年、漁港法に基づき当該船入潤を含む区域が函館漁港として指定された後、新たな施設の整備が順次進められてきました。そのなかであって、約 115 年経過した現在でも、北側防波堤約 100m、南側防波堤約 10m が当時のまま現存し、現役の防波堤として機能しています。

長い年月風雪に耐えてきた防波堤ですが、本体石積部の緩み、北側防波堤堤頭部の崩壊・撤去や堤頂部の馬踏石（まぶみいし）の損傷・消失など老朽化が顕著になってきました。そのため、平成 11 年度より船入

【北側防波堤】



(修復後)

(修復前)

【南側防波堤】



(修復後)

(修復前)

潤防波堤の修復に向けた各種検討が行われてきました。平成 23 年度それまでの検討を踏まえ修復工事に着手し、本年 3 月下旬修復工事が完成しました。

4. 修復工事報告会の趣旨

修復に向けた検討に当たっては、学識経験者、地域住民、漁業者や郷土史に精通された方などの参画を頂き、新たな漁港施設の整備のみならず、船入潤防波堤のあり方等について検討頂きました。また、地元の方々からご提供頂いた貴重な写真を基に現在失われた部分の修復形状を決定した場面もありました。

このように、今回の函館漁港船入潤防波堤修復工事は、その前段階から多くの地域関係者などに支えられてきた工事であることから、ご協力を賜りましたこれらの方々へ感謝の意をお伝えしたいとの考えで今回の報告会を企画したところです。



報告会の様子

5. 修復工事報告会の概要

報告会は、平成 11 年度以降開催した各種検討会に参画頂いた学識経験者や地域関係者等をお招きし、平成 25 年 5 月 14 日に開催しました。また、翌日 15 日には希望者による現地見学会も実施したところです。

報告会当日は平日にも関わらず、地域の住民の方々、工事関係者や行政関係者等約 40 名の方々のご出席を賜りました。

報告は、①函館港湾事務所から、函館漁港船入潤防波堤建設の経緯から今回の修復工事とその記録作成に関する全体の紹介、②修復工事受注者（平成 23 年度：株式会社菅原組、平成 24 年度：株式会社松本組）を代表して松本組堀工事課長から、船入潤防波堤の構造的特徴、修復工事で確認された建設当時の工夫、工事に当たって留意した点や苦勞した点、③今回の修復工事の考え方や施工状況等を後世に残すために実施した函館漁港石積防波堤整備記録作成業務を受注した（一社）寒地港湾技術研究センターの若森（前）次長から、整備記録作成の目的、修復工事の進捗とその際に得られた新たな知見等の 3 つの内容でした。最後には、函館漁港石積防波堤整備記録作成業務の成果の一環で作成した DVD を視聴して頂きました。



まちづくりセンター保管の写真

また、当日会場には、「まちづくりセンター」で保管されている貴重な写真を多数ご提供頂き、会場に花を添えて頂きました。

6. おわりに

廣井博士の手がけられた貴重な財産である船入潤防波堤を未来に引き継いでいくため、建設当時の設計思想と構造、材料及び施工方法を尊重し、工事に取り組んできました。このような節目の年に、事故なく本修復工事が完成したことにつきまして、これまで様々な面においてご支援、ご協力賜りました多くの方々に対し、この紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

第 56 回(平成 24 年度)北海道開発技術研究発表会 受賞論文（港湾部門）の概要について

独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ寒冷沿岸域チーム

第 56 回（平成 24 年度）北海道開発技術研究発表会は、平成 25 年 2 月 19 日から 21 日の 3 日間にわたり、北海道開発局研修センターにおいて開催され、指定課題・2 課題、自由課題 8 カテゴリー・204 論文の発表

が行われました。このうち、創造性、将来の発展性、研究努力、経済性及びプレゼンテーションなどの観点から北海道開発局長賞、寒地土木研究所長賞、北海道開発協会会長賞および奨励賞が選出され、平成 25 年 5

月9日に札幌第一合同庁舎 2F 講堂において、北海道開発局長賞、寒地土木研究所長賞、北海道開発協会賞の表彰式が行われました。港湾部門（港湾・漁港・空港事業関連）からは、6 課題が表彰されました。本論文は北海道開発局 HP 上で公開されておりますので、研究課題および発表者をご紹介します。

北海道開発局長賞 受賞論文

研究課題（コスト-7）

国際物流活性化の検討について
 —北海道国際輸送プラットフォームの構築—

発表者

港湾空港部港湾計画課	三岡 照之
同上	佐々木 亮
同上	古屋 武志

概要

現在、北海道の外貨貨物は輸入超過の状況にあり、道内の物流費の高コストの要因となっている。この課題の解決にあたっては輸出拡大をはかる事が重要であるが、その輸出商材の候補として、近年、輸出の伸びが注目される食品（農水産品・食料加工品）にスポットを当て、国際物流の活性化に向けた検討を行う。検討にあたっては、札幌大学と北海道開発局が設立した「国際物流を通じた道産品輸出促進研究会」が主導する官民連携による「北海道国際輸送プラットフォーム」構築に向けた取組を整理し、北海道の国際物流活性化方策を提案する。

寒地土木研究所長賞 受賞論文

研究課題（戦略的維持管理-2）

オホーツク海沿岸における将来的な海象変化を考慮した防波堤の安定性に関する一考察



北海道開発局長賞受賞者
 (前列左 1 番目三岡氏、後列右 3 番目佐々木氏)

発表者

(独)寒地土木研究所寒冷沿岸域チーム	山之内 順
同上	上久保勝美
同上	山本 泰司

概要

本研究では、オホーツク海を対象として将来的な海象変化を考慮した確率波高分布を、MRIAGCM3.2S の気象データを用いて仮定し、将来の海水面積減少に伴う波浪増大の影響を考慮した堤体滑動量をモンテカルロ法にて検討することで、将来的な波浪増大および海面水位の上昇が防波堤に与える影響を検討した。また、将来波浪に対する防波堤の維持対策の検討について、モンテカルロ法を用いた場合の一例を示した。

北海道開発協会賞 受賞論文

研究課題（安全・安心-6）

湾業務艇の水中部確認装置スナップショット処理ソフトの開発について
 —津波災害時における安全航行のために—

発表者

事業振興部 機械課	佐々木智章
同上	小堀 文章
港湾空港部 港湾建設課	佐々木洋介

北海道開発協会賞奨励賞 受賞論文

研究課題（安全・安心-8）

抜海漁港における漂砂対策について
 —防砂堤整備における効果と今後の課題—

発表者

稚内開発建設部 稚内港湾事務所	小林 祐一
同上	落野 憲人
(社)寒地港湾技術研究センター 調査研究部	藤本 恵



寒地土木研究所長賞受賞者
 (後列左 1 番目、山之内氏)

研究課題（技術一般-8）

釧路港における外航クルーズ船への対応と今後の課題
—港湾機能と市民活動の強化による更なる観光振興に向けて—

発表者

釧路開発建設部 釧路港湾事務所 杉尾 大樹
同上 一政 悟
同上 尾崎 広大

研究課題（環境-2）

北海道沿岸における漁場環境の変動機構解明の試み
—鶴川出水前後の水質変化に関する観測・解析手法—

発表者

(独)寒地土木研究所水産土木チーム 須藤 賢哉
同上 大橋 正臣
同上 山本 潤

(写真提供 寒地土木研究所寒地技術推進室)

(文責 寒地土木研究所 本山)

■ 雪氷期の津波沿岸防災対策の検討について

北海道開発局 開発調整課

北海道開発局では、先ごろ、「雪氷期^{*1}の津波沿岸防災対策の検討報告書」及び「周知啓発資料『北海道の冬の津波に備える！！』」をホームページに掲載・公表しました。

報告書では、冬期に津波が発生した場合、それ以外の期間と比べ、雪や氷、低温などの影響により、リスクが大きくなることを指摘しています。また、冬期特有の上乗せリスクを、①施設被害の拡大、②避難行動の遅れや阻害、③啓開・復旧活動の遅延の3つに分類した上で、これらの上乗せリスクに対応するために、ハード対策、ソフト対策それぞれの方向性を示しています。ハード対策の方向性は、「防護ライン^{*2}をレベル1津波^{*3}に対応した整備水準とすること」、ソフト対策の方向性は、「雪氷期特有の上乗せリスクを周知し、早期避難の啓発等を推進すること」、「雪氷期特有の物理現象をメカニズムや対応方法等に関する研究を推進すること」、「発災後の啓開・復旧を円滑に実施可能な体制を構築すること」などを内容としています。

(※1 流水、河川結氷、港内結氷、積雪等の出現期)

(※2 津波による堤内地への浸水を防ぐために設置した防潮堤や河川堤防等の施設を線的に結んだもの)

(※3 大きな被害をもたらす津波で、人命及び財産を守るための海岸保全施設等を整備する上で想定する津波のこと)

このような検討に至る背景としては、国内他地域と同様、北海道も地震や津波による被害が多数発生している地域であるとともに、積雪寒冷の気候特性から、冬期の津波による被害が実際に発生しているという課題が挙げられます。こうした中で、平成22年2月に発生したチリ地震津波を契機として、「北海道開発局

津波対策検討委員会」(委員長:河田恵昭関西大学教授)が設置され、北海道の地域特性を考慮した津波対策のあり方に関する検討が行われました。検討の結果、平成24年3月に『津波対策に関する提言書』がまとめられましたが、平成23年3月に発生した東日本大震災の教訓や課題等も踏まえた内容となっております。提言では、冬期に津波が来襲した場合の被害拡大に留意する必要性や、積雪寒冷地である北海道特有の課題を解決するため、調査検討の必要性が指摘されています。

上記のような背景を踏まえ、積雪寒冷地域における冬期の津波発生による沿岸防災対策の方向性を技術的見地から検討するため、津波発生時に雪氷現象^{*4}が伴った場合特有の物理現象やリスクについて考察し、防災対策の方向性や被災時オペレーションの留意点な



冬期の津波を想定した堆積流氷の撤去実験の様子

どに関する技術的考察を行うこととしました。

なお、検討にあたっては、関連各分野の学識経験者等によって構成する「雪氷期の津波沿岸防災対策検討会」を設置し、総合的な見地から、議論を進めることとし、座長には、海岸構造物の専門家である木村克俊室蘭工業大学大学院教授にご就任いただきました。この他、津波など海岸工学の専門家として、渡部靖憲北海道大学大学院准教授、津波による流水群の陸上来襲に備えた沿岸防災に関する研究等に取り組まれている、木岡信治土木研究所寒地土木研究所寒地沿岸域チーム主任研究員、河氷工学・河川工学の専門家として、吉川泰弘北見工業大学助教、河川の結氷や津波遡上の研究等に取り組まれている、柿沼孝治土木研究所寒地土木研究所寒地河川チーム総括主任研究員、避難の観点では、交通計画・都市計画の専門家である、岸邦宏北海道大学大学院准教授に参画していただきまし



参加者の質問に応える木村室蘭工業大学大学院教授

た。

(※4 流水・河川結氷・港湾結氷・積雪等、冬期に発生する物理現象)

検討会は、平成24年10月から平成25年2月末まで計3回にわたり開催しましたが、技術的考察が必要な事項については、実験などを通じて確認しました。海水を伴った津波の遡上状況については、北海道大学と土木研究所寒地土木研究所の共同研究である「海水を伴った津波氾濫に関する水理模型実験」を活用し、同研究所の実験施設における1/100スケールモデルによって確認しました。陸上に堆積した流水などの撤去にかかる作業量などの確認のために、平成25年2月中旬には、網走市の協力の下、「あばしりオホーツク流水まつり」終了後の氷雪像を堆積流水に見立てた撤去実験を行いました。

これら検討結果については、「雪氷期の津波沿岸防災対策の検討報告書」の公表に先立ち、平成25年3月13日(水)、札幌市内で、「北海道の冬期の津波防災に関する報告会」として、検討会各委員からそれぞれの専門分野に関連する報告をしていただきました。当日は、建設業関係者の他、研究職、行政機関職員など約200名の参加があり、冬期の津波防災に対する備えの必要性を、多くの方に感じていただく機会となりました。

検討会資料、報告書などは、北海道開発局HPの下記URLをご覧ください：

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_jigyoku/bosai/seppyou_tsunamitaisaku.htm

■ 北海道国際輸送プラットフォームの平成25年度の取組について

北海道開発局 港湾空港部

北海道開発局では札幌大学と「国際物流を通じた道産品輸出促進研究会」(以下、研究会)を発足し、北海道、札幌産業振興財団、フード特区機構等の公益団体及び、ヤマト運輸、北海道テレビ(HTB)、北洋銀行などの民間企業にもご参加いただき、道産品の輸出拡大に向けた「北海道国際輸送プラットフォーム(略称HOP)」構築事業を進めています。

平成24年度には、HOP1サービス(冷凍冷蔵の小口航空機輸送サービス)、サンプル輸送事業(新規に

輸出を検討する事業者等を支援する事業)を香港・シンガポールを対象として実施してきました。

24年度のサンプル輸送事業には14社が参加し、うち3社は、海外との取引を開始しています。また、HOP1サービス(サンプル輸送含む)では216箱(1900kg)の荷物の輸送が行われました。

25年度は新たな展開として、台湾向けHOP1サービスを開始することとし、5月から申込受付を開始しております(台湾向けサンプル輸送事業については

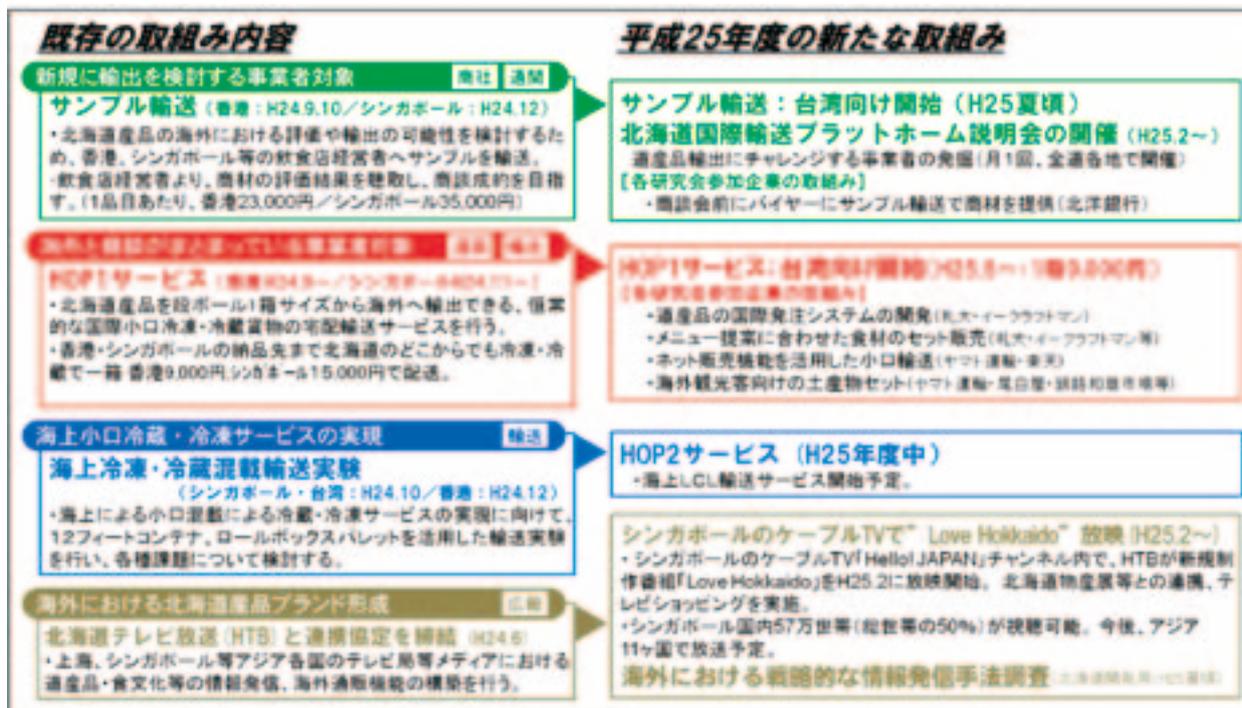


図1 「北海道国際輸送プラットホーム」の取組内容



写真：台湾へのHOP1 サービス輸送の様子

25年夏以降開始予定)。台湾向けを開始した理由は、新千歳空港からの直行便が就航しており、来道者数が最も多いことから、貨物の潜在需要が多いと想定されるためです。

また、現行のHOP1サービスは航空輸送を行っていますが、商品の中には輸送コスト等が航空に馴染まないものもあるため、今年度中に海上LCL輸送サービス(HOP2サービス)を開始する予定です。

このほかに、「研究会」と連携協定を結んでいる、HTBが、25年2月よりシンガポールのケーブルテレビで北海道の魅力を紹介する「Love Hokkaido」という番組の放送を開始しました。この番組では道産食材

を取り上げ、研究会との連携によりテレビショッピングによる道産品の販売を行います。なお、今後、アジア11ヶ国での放送が予定されています。

さらに、各研究会参加企業の取組みも活発化しています。例えば、これまでアジア等の外国人観光客が購入するお土産は、お菓子等の航空機内への持ち込みが容易な商品が主流でした。北海道の農水産品等の商材の魅力は海外の方々にも認められてはいるものの、自国へ冷凍・冷蔵で配達できるサービスがない等の課題があったことから、農水産品の購入は進みませんでした。そこで、HOP1サービスを利用し、これらの課題を解決した「海外観光客向けの土産物セット」が参加企業等により実施される予定です。この効果は、輸出拡大に留まらず、これまで海外観光客から素通りされてきた各道内観光地の新鮮な農水産品の購入につながる等の経済効果も期待されています。

なお、HOPの取組はマスコミ等にも取り上げられており、5月10日の「北海道クローズアップ(NHK北海道)」、5月17日の「おはよう日本(NHK全国)」などで特集が組まれ、全道のみならず、全国の事業者から大きな反響が寄せられています。

一方、研究会の取組みは活発化しているものの、研究会の構成員は札幌大学と北海道開発局の2者とされており、各参加機関・参加企業はオブザーバーと位置づけていることから、各者が主体的・機動的な活動が行いにくいという課題が見えてきました。

そのため、4月12日に開催された研究会において、

「北海道国際輸送プラットフォーム推進協議会」を設置することとし、同協議会では、HOP構築に向けた各種プロジェクトを主体的に検討する事業者が集まり、詳細の検討・実施を行うグループを設置することとなりました。

なお、今後の研究会の位置づけは、HOP実現に向けた情報共有・議論は推進協議会に移行することとし、研究会においては道産品輸出に係る理論構築・技術的課題を検討する場としていくこととなります。

今後も北海道経済の発展に資する「北海道国際輸送プラットフォーム」構築事業を迅速に機動的に進めていきますので、皆さまのますますのご協力をよろしくお願いいたします。

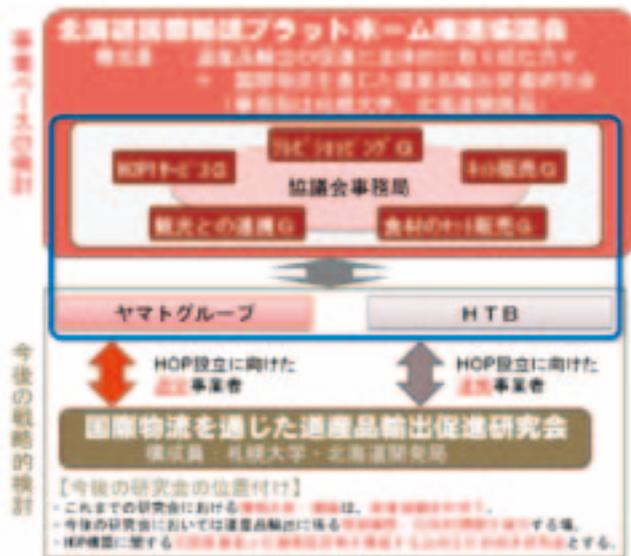


図2 今後の体制

「北海道マリンビジョン21」の改訂について

北海道開発局 農業水産部 水産課

1. はじめに

北海道が我が国の水産食料供給基地として、地域の資源を活かしながら、多様な主体の連携・協働により活力ある水産業や漁港漁村の実現を図るため、平成16年6月に「北海道マリンビジョン21」は策定されました。

その後、概ね10年が経過し、策定当初には想定していなかった産業の様々な課題や、水産に関連する国の新たな方針が相次いで決定されています。

これら国の方針や情勢の変化に適切に対応する必要があることから、北海道開発局では、「北海道マリンビジョン21」を改訂するため、「北海道マリンビジョン21構想検討委員会」を設置しました。本ビジョンの改訂にあたっては、学識経験者、有識者、関係行政機関で構成される委員会を3回開催し、幅広い観点から検討いただきました。さらに、広く様々な方からのご意見を伺うため、パブリックコメントを実施し改訂しました。

2. 「北海道マリンビジョン21」の改訂のポイント

平成16年策定以降の情勢変化等に対応するとともに、10年間の取組の経験を踏まえ、より効率的・効果的に推進するための充実・強化を図りました。

■改訂ポイント1

北海道水産業を巡る情勢変化、国等の新たな方針や、これまで10年間の取組状況等から導かれる主

要課題（水産資源の減少、輸出ニーズの高まり、水産物の国内消費の低迷、東日本大震災を契機とした地震・津波対策の要請等）を適切に反映。

■改訂ポイント2

各地域、個々のマリンビジョンの検討にあたって



北海道マリンビジョン21構想検討委員会

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
委員長	はらばらたて 東洋大学	名誉教授	委員	山崎 隆	
副委員長	北海道大学大学院水産科学研究院	准教授	委員	山下 成治	
委員	北海道漁業協同組合連合会	代表理事兼専務	委員	佐藤 志朗	
委員	社団法人 北海道漁業協会	会長	委員	橋本 智子	
委員	（株）リクルート北海道じゃらん	地域開発総括プロデューサー	委員	深田 聖紀	
委員	株式会社 マリンネットワーク	理事長	委員	石野 浩典	
委員	いぶり中央漁業協同組合	専務理事	委員	本間 勲次	
委員	（株）東急百貨店 札幌支店	営業課セールスマン	委員	山下 隆治	
委員	東北海洋大学海洋科学部	教授	委員	星 小波	
委員	北海道マリンビジョン21推進期成会	会長	委員	橋本 紀康夫	
行政委員	北海道水産林業振興局	水産振興管理官兼局長	委員	森田 浩一	
行政委員	北海道開発局	次長	委員	本村 伸博	
顧問	北海道大学	教授	委員	池田 浩	

北海道マリンビジョン21構想検討委員会名簿

は、主要海域毎に具体的なイメージが分りやすく描けるよう、海域特性が類似した5地域（日本海北部、日本海南部、えりも以西太平洋、えりも以東太平洋及びオホーツク海）に区分して、主要課題を3つの観点（①資源・環境、②生産・流通、③地域振興）から整理したうえで、各々テーマ性を示しつつ、将来像を提示。

■改訂ポイント3

各地域におけるこれまで10年間の経験をもとに、個々の地域マリンビジョンの取組の具体化とともに、効率的・効果的な推進を図る上での参考となるよう、推進方策（推進母体の体制強化、多様な連携・協働の推進、効果的な情報発信等）の内容について、

大幅に充実・強化。

3. 「北海道マリンビジョン21」の改訂について

「北海道マリンビジョン21」では、活力ある水産業や漁村の将来像を実現するため、水産基本法に基づく「水産物の安定供給」と「水産業の健全な発展」を基本目標に掲げ、以下に示す4つの目指す姿を柱に、北海道水産業と漁港漁村の将来ビジョンを描きました。

4. おわりに

「北海道マリンビジョン21」が、北海道の水産業や漁港漁村に関わる様々な取組の指針となり、北海道水産業の先導的な役割を果たすことを期待しております。

水産物の安定供給		水産業の健全な発展	
水産物の安定供給基盤の確保 持続的漁業生産体制の確立 ・科学的根拠に基づく効果的な資源管理手法の構築 栽培漁業のさらなる発展 ・有用水産資源の種殖生産・養殖技術開発 ・遠洋整備等で創出された静穏水域の活用により、養殖・養蚕生産の拡大 豊かな生態系を目指した水産環境の保全・創出 ・水生生物の生活史を踏まえた藻場・干潟や増殖場の造成、人工魚礁の設置等による豊かな生態環境の創出 ・沖合での大規模漁場整備による海域の生産力増大	環境保全と循環型社会の構築 沿岸海域の環境保全活動の広がり ・森・川・農・海を通じた環境保全活動の組織化と取組の拡大 漁港漁村のエコ化の進展 ・生産、流通、加工の過程での省エネ化や再生可能エネルギーの導入 ・蓄熱熱等のローカルエネルギー活用システムや電動漁船の活用 水産系廃棄物等のリサイクルの進展 ・FRP漁船や水産加工残滓等のリサイクル技術の開発による新たな資源としての活用と、地域経済を支える産業おこし	水産物の安定供給体制の確保 衛生管理対策をはじめとした産地流通体制の強化と高度化の取組 ・衛生管理型冷凍整備等の進展による産地衛生管理体制の確立 ・消費者ニーズに合わせた商品開発と北海道ブランドの確立による需要拡大 輸出の進展 ・市場開拓、MSC認証取得拡大、輸出相手国衛生管理基準への対応等による水産物輸出の増大 災害時における水産物安全供給 ・漁港施設の耐震・耐津波対策やBCPの策定等による災害に強い生産・流通体制の構築	漁村・漁地の新たな発展 安全で確実な水産物供給の確保 ・災害時の緊急物資輸送や避難を可能とするハード整備や地域の自主的な取組によるソフト対策の進展 地域資源を活かした新たな産業の創出 ・都市との多様な交流の促進 ・水産物の多様な出荷・販売など6次産業化の取組の強化 ・都市漁村交流や地域資源を活かした産業おこし等、多様な「海業」の展開 多様な連携による地域振興 ・水産関係者、住民、行政等の連携による地域振興方策の実施 ・連携の広がりによる地域活力向上

■ 羽幌港中央ふ頭の供用について

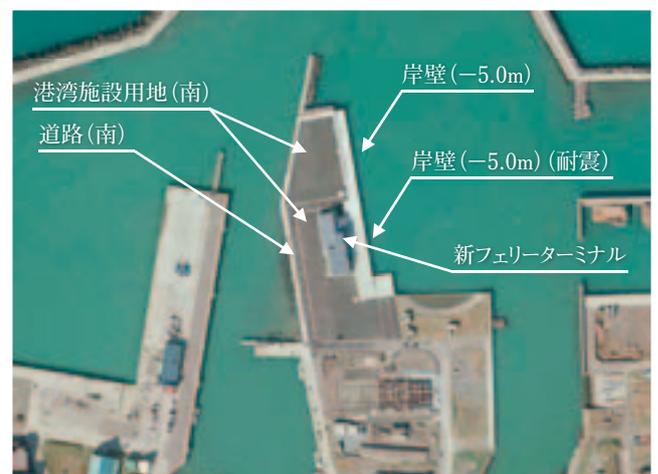
留萌開発建設部築港課 港湾計画官 光成 真也

1. 羽幌港の概要

羽幌港は、北海道日本海側北西部の広域観光ルートである日本海オロロンラインの中心に位置し、国定公園である天売・焼尻島への離島フェリー航路の玄関口として、地域住民や観光客に利用されており、離島の生活、産業、観光を支えています。また、日本一の漁獲量を誇る甘エビ等、好漁場である武蔵堆に隣接した水産業の拠点港として重要な役割を担っています。

2. 整備目的

羽幌港は、背後の地域産業とともに、天売・焼尻島の生活・産業を支える重要な役割を担っています。しかしながら、離島フェリーが利用する既存の岸壁は老朽化が進行し、継続して利用するためにも対策が必要



羽幌港中央ふ頭全景



式典テープカットの状況

な状況となっています。

また、羽幌港には耐震強化岸壁が整備されていないことから、大規模地震時における背後地域への緊急物資輸送はもちろんのこと、天売・焼尻島（耐震強化岸壁整備済み）への迅速な緊急物資輸送が確保されていない状況にあります。

さらに、本港は日本海北部の最大にして最高の好漁場「武蔵堆」に隣接しているという地理的優位性から、約100隻の小型船が利用していますが、係留施設の不足による非効率な作業を強いられています。

これらの問題に対応するため、大規模地震発生時及び平常時における物資や旅客輸送機能の確保とともに、小型船の混雑解消による水産活動の効率化を目的として、平成13年度に現地着工し、平成24年度に完了しました。

3. 施設規模および用途

1) 岸壁（-5.0m）（耐震） 延長87m

主部70mと船尾部17mの耐震強化構造となっています。通常時は、離島間を往復する「フェリーおろろん2」が利用します。

2) 岸壁（-5.0m） 延長80m

離島間を往復する高速旅客船「さんらいなあ2（今年4月に就航した新造船）」が利用します。高速船の安全な離接岸を支援するため、背後に防風柵を設置しています。

3) 港湾施設用地（南） 面積9,200m²

震災時は緊急物資の仮置き場所として、通常時はフェリーや高速船利用者の駐車場として利用されます。



石碑除幕式の状況

4) 道路（南） 延長285m

中央ふ頭へアクセスする2車線の臨港道路です。

4. 供用開始式典

平成25年4月14日（日）午後1時から羽幌港中央ふ頭供用式典を開催しました。同時に、岸壁（-5.0m）（耐震）背後に新設されたフェリーターミナルの完成も併せ、留萌開発建設部と羽幌町の共催により、新フェリーターミナルで執り行い、当日は、式典出席者が54名、そのほか関係者および一般見学者が合わせて約210名が集まりました。

はじめに、舟橋羽幌町長と許士留萌開発建設部長の式辞のあと、山中国土交通省北海道局大臣官房審議官の挨拶、そして渡辺孝一衆議院議員、徳永エリ参議院議員の祝辞があり、安宅羽幌町建設水道課長と小路留萌港湾事務所長より工事概要の報告がなされました。最後に、渡辺、徳永両議員、山中審議官、舟橋町長、江野羽幌沿海フェリー社長、嶋元羽幌沿海フェリー船長の6名により、新フェリーターミナル前においてテープカットが行われ、式典を終了しました。

その後、羽幌町主催の記念イベントとして、新フェリーターミナル横に設置された石碑の除幕式が行われたほか、新造高速船から餅まきが行われました。なお、予定していた高速船試験運航は荒天のため中止となりました。

今後は、中央ふ頭が防災拠点となり町民の安全を確保していくとともに、観光をはじめとした地域間交流の拠点として地域の発展に貢献されることを期待しています。

登別・白老地域マリンビジョン協議会からの報告

登別市観光経済部 農林水産グループ

登別・白老地域は、北海道の中央南西部の太平洋岸に位置し、ビジョンの拠点となる登別漁港が登別市と白老町の行政界に位置することから、2市町が位置づけられています。

登別市は、全国屈指の温泉郷である登別温泉をはじめ、地獄谷、テーマパーク等を有し、年間約282万人（平成24年度）の観光客が訪れ、観光が基幹産業となっています。

白老町は、黒毛和牛、椎茸、水産等の一次産業をはじめ、製紙工業等の二次産業、虎杖浜温泉やアイヌ民族の文化継承をテーマとした観光等、多種多様な産業構造となっています。

登別・白老地域マリンビジョン協議会は、登別漁港における水産物の安定供給と水産業の健全な発展、活力ある水産業や地域を目指すため、登別市と白老町の他、漁協関係者、加工流通関係者、漁港利用者、観光関係者、地域代表の方が集まり検討を重ね、～「環境」を基盤とした「観光」との熱い連携、そして深い「感動」を～をコンセプトに「登別・白老（虎杖浜）地域マリンビジョン」を計画し、平成18年度にモデル地域の指定を受けました。

地域の目指す姿としては、徹底した品質・衛生管理の強化を図り、産地基盤を強固にすること、また、地産地消を推進し、地場の水産応援団の拡大を図るとともに、温泉等の周辺観光地への供給体制を確立し、食と交流の感動を同時に創出することで観光産業との相乗効果の発現を目指すこととし、次の3点のテーマで取り組んでいます。

I 観光連携の鍵となる生産流通機能の高度化とPR推進によるブランド力の強化

【衛生管理に対応したプラスチック魚箱の導入】

登別漁港の主要魚種であるスケトウダラに使用している魚箱を木製からプラスチック製に変更し、衛生管理の強化を図りました。



プラスチック製魚箱の利点として、従来の木製魚箱と比較し、衛生面の強化や木片等の付着防止が図られます。

【製氷施設の海水氷化】

食への安全・安心に関する消費者ニーズが高まる中、登別漁港では水揚げされた水産物の鮮度をより高水準に保つため、「海水氷」が作れるよう製氷施設を改修しました。登別漁港内の市場で使用する氷は、これまで水道水を使用し製氷していましたが、今後は滅菌処理を施したキレイな海水を使用して製氷ができるようになり、更なる水産物の鮮度保持が図られます。



【漁協名・地域名、船上活締めシールの作成】

他の地域の水産物との差別化を図り、登別漁港産ブランドの創出による付加価値化を目指すため、漁協名や地域名、船上活締めシールを作成し、漁獲物を入れた発泡箱や漁獲物に貼り出荷しています。

船上活締めシールは、主に、船上にて活締めした最高級のトキシラズに使用しており、近隣の温泉宿泊施設や飲食店に無償提供を行いPRに努めています。



【登別ブランド推奨品のPR】

登別ブランド推奨品であり、登別漁港産の新鮮なスケトウダラの魚卵を使用した「らんぼっけのたらこ」や、「らんぼっけのたらこ」を特製のキムチダレに漬けた「登別たらこ地獄漬」、登別漁港産ヤナギダコを用いた「北海大だこ地獄漬」を様々なイベント等でPRしています。



II 地産地消推進による地場の水産応援団の拡大、観光との相乗効果の発現

【登別海鮮直市の開催】

登別海鮮直市は、登別漁港産の水産物を地産地消することでの地場産水産物のPR、また、水産応援団の拡大と地域の活性化を目的とし、平成18年5月より開催しています。この取り組みは、登別まちづくり促進期成会が中心となり、いぶり中央漁業協同組合や登別市との連携・協働の下、4月から10月の期間において、JR登別駅前アンテナショップにて、毎週日曜日の10時より、登別漁港で水揚げされた新鮮な水産物を直売するものであり、今年で8年目を迎えています。近年は、地域住民に限らず、地域外からの来客や周辺の観光地での宿泊後に立ち寄られる観光客も見受けられ、新鮮な魚介類が購入できると好評を得ており、お客様にマリビジョン通信などを配布することにより、登別



漁港産水産物の品質・衛生管理による取り組みの情報も発信しています。また、平成24年から、室蘭追直地域マリビジョン協議会と連携し、初日限定で当地域には無い「ホタテ貝」を登別漁港産水産物と併せて販売しています。



【ご当地メニュー「ゆたら丼」の開発】

白老町ご当地グルメとして、地場の水産物をはじめ、様々な地元食材を用いた「どんぶりメニュー」を開発し、虎杖浜、竹浦地区の飲食店や温泉施設の9店舗で販売しています。ブランド化の確立に向け、買い物バスツアーに組み込むなど観光との連携を検討しています。



III 「まちづくり」の一環としての漁港づくり

【サケの採卵・放流体験の実施】

漁業体験による総合学習の推進を目的に、登別市内及び白老町内の小学生を対象に「さけ・ますふ化場」にて、サケの採卵・人工授精体験や放流体験を行っています。



【漁港清掃・お魚を殖やす植樹運動の実施】

「まちづくり」や「漁業環境の保全」また、漁港漁場における漁業者と遊漁者との共存を目的に、漁港清掃や植樹活動を行っています。漁協や漁協女性部などの漁業関係者の他、プレジャーボート団体、シルバー人材センター、地元中学校、行政などが協働のもと、様々な環境保全活動を実施しています。





平成 25 年度 みなとのお祭り・イベント情報

(注) 開催日等については予定を記載しておりますので、変更になる場合があります。

港湾名	祭り等の名称	場 所	実施時期	主催/問合せ先
函館港	海の日記念 函館港花火大会	函館港豊川ふ頭～ 青函連絡船記念館摩周丸前岸壁	7月中旬	函館新聞社 0138-43-2121
	はこだて マリンフェスティバル	函館港港町ふ頭ほか	7月下旬	函館国際水産・海洋都市推進機構 0138-27-7306
	函館港まつり	函館港・函館市内	8月上旬	同実行委員会 0138-27-3535 (社) 函館国際観光コンベンション協会内
	はこだて クリスマスファンタジー	函館港末広地区 赤レンガ倉庫群前	12月	同実行委員会 0138-27-3535
森港	あきあじ祭り	森漁協購買店舗広場	10月下旬の日曜	森漁業協同組合 01374-2-2222
楸法華港	八幡神社例大祭	八幡神社及び村内一円	8月上旬	楸法華八幡神社 0138-86-2455
松前港	松前城下時代まつり	松前町松城地区	8月中旬	松前観光協会 0139-42-2726
江差港	活！江差海鮮みなと イカ刺しまつり	江差町江差漁港区	7月上旬	江差観光コンベンション協会 0139-52-4815
	かもめ島まつり	江差町かもめ島	7月上旬	江差観光コンベンション協会 0139-52-4815
	江差姥神大神宮渡御祭	江差町内一円	8月中旬	同協賛実行委員会 0139-52-4815
奥尻港	奥尻しまびらき	奥尻港湾特設会場	5月上旬	同実行委員会 01397-2-2351
	なべつるまつり	奥尻港港内	8月下旬	同協賛行事実行委員会 01397-2-2351
瀬棚港	せたな漁火まつり	瀬棚港港内漁火公園	8月上旬	同実行委員会(瀬棚観光協会内) 0137-87-2888
小樽港	おたる運河ロードレース	色内埠頭公園	6月中旬	同実行委員会 0134-32-4111 内線 318
	マリン・フェスタ in 小樽	小樽築港臨海公園、小樽港マリーナ、ウイングベイ小樽、新日本海フェリーターミナル	7月中旬	北海道運輸局海上安全環境部 0134-27-7212
	おたる潮まつり	第3号埠頭周辺及び市内中心部	7月下旬	同実行委員会 0134-32-4111 内線 267
	おたる産しゃご祭	運河公園	11月下旬	小樽市漁業組合 冷凍事業部 電話：0134-27-3138
	小樽ロングクリスマス	運河プラザ、 小樽港マリーナほか市内各地	11月中旬～ 12月下旬	小樽観光協会 0134-33-2510
	小樽雪あかりの路	小樽運河、色内手宮線跡地ほか 市内各地	2月上旬～中旬	同実行委員会事務局 電話：0134-32-4111 内線 267
岩内港	岩内神社例大祭	町内一円、岩内港漁港区	7月中旬	岩内町企画経済部企画産業課 0135-62-1011 岩内神社社務所 0135-62-0143
	深層水祭り	岩内町地場産業 サポートセンター	7月	岩内町地場産業サポートセンター 0135-62-5180
	いわない怒濤まつり	岩内港漁港区	8月上旬	同実行委員会(岩内町企画経済部企画産業課) 0135-62-1011
余市港	北海ソーラン祭り	余市町内一円	7月上旬	同実行委員会(余市町商工観光課) 0135-21-2125
室蘭港	むろらん港まつり	室蘭市入江地区、中島町	7月下旬	同実行委員会(室蘭観光協会内) 0143-23-0102

港湾名	祭り等の名称	場 所	実施時期	主催／問合せ先
室蘭港	スワンフェスタ	室蘭港中央埠頭周辺	9月上旬	室蘭市観光課 0143-25-3320
苫小牧港	苫小牧港まつり	苫小牧市若草町 中央公園他	8月中旬	同実行委員会 0144-33-2233
	苫小牧漁港 ホッキ貝まつり	苫小牧西港漁港区岸壁	10月第3日曜	
えりも港	えりもの灯台まつり	えりも町灯台公園	8月中旬	同実行委員会 01466-2-2111
	えりも海と山の幸 フェスティバル	えりも町スポーツ公園	10月上旬	えりも町水産農林課 01466-2-4624
浦河港	うらかわ港まつり	浦河港北埠頭特設会場	8月中旬	実行委員会（浦河商工会議所） 0146-22-2366
白老港	元気まち しらおい港まつり	白老港インカミンタル周辺	7月下旬	実行委員会（白老町商工会内） 0144-82-2775
釧路港	くしろ霧フェスティバル	国際交流センター前	7月下旬	同実行委員会 0154-24-3400 釧路青年会議所 0154-42-1121
	くしろ港まつり	釧路港東港区・北大通り他	8月上旬	釧路市港湾空港振興課 0154-53-3371
	釧路大漁どんばく	釧路市観光国際交流センター 他	9月上旬	同連絡協議会 0154-31-1993
	釧路 Oh!! さかなまつり	釧路副港市場 マリントボステ設会場	9月上旬	同実行委員会 釧路市水産課 0154-22-0191
	くしろ氷まつり	釧路市栄町平和公園、 MOO 前面岸壁	2月上旬	くしろ氷まつり会 0154-47-0808
根室港	ねむろ港まつり	根室市内	7月中旬	同実行委員会 根室市商工観光課 0153-23-6111
	根室かに祭り	根室港特設会場	9月上旬	同実行委員会 根室市観光協会 0153-24-3104
	根室さんま祭り	根室港特設会場	9月中旬	同実行委員会 根室市商工観光課 0153-23-6111
	根室産業フェスティバル	北方四島交流センター (二・ホ・ロ) 横特設会場	10月上旬	産業フェスティバル協賛会（根室商工会 議所内） 0153-24-2062
十勝港	十勝港海上花火大会	十勝港第4埠頭	8月上旬	広尾町水産観光課 01558-2-0177
	十勝港まつり	広尾町役場前特設会場、 十勝港第4埠頭	8月中旬	十勝港まつり協賛会（広尾町水産観光課 内） 01558-2-0177
	ひろお海鮮山鮮まんぶく祭り	シーサイドパーク広尾	12月中旬	広尾町水産観光課 01558-2-0177
網走港	網走感動朝市	網走港新港地区特設会場	7月中旬～ 10月中旬	同実行委員会（網走市観光課内） 0152-44-5524
	あばしりオホーツク 夏まつり	網走港港町地区	7月下旬	同実行委員会（網走商工会議所内） 0152-43-3031
	流水観光砕氷船 『おーろら』運航	網走港川筋地区 みなと観光交流センター	1月中旬～ 3月下旬	道東観光開発 0152-43-6000
	あばしりオホーツク 流水まつり	網走港商港埠頭広場	2月中旬	同実行委員会（網走市観光課内） 0152-44-6111
紋別港	もんべつ春鮮まつり	氷紋の駅、もんべつ道の駅	5月上旬～ 6月中旬	紋別市観光交流推進室 0158-27-5181
	もんべつ観光港まつり	紋別市市街地・港町地区	7月中旬	紋別観光協会 0158-24-3900
	もんべつグルメまつり	氷紋の駅駐車場	10月上旬	同実行委員会（紋別観光協会内） 0158-24-3900
	もんべつ海産まつり	紋別市海洋公園イベント広場	12月上旬	同実行委員会（紋別市水産課内） 0158-24-2111
	流水砕氷船 『ガリンコ号Ⅱ』冬季運航		1月～3月	オホーツク・ガリンコタワー(株) 0152-43-6000
	もんべつ流水まつり	紋別市海洋公園イベント広場	2月中旬	同実行委員会（紋別観光協会内） 0158-24-3900
	流水あいすらんど共和国	紋別市海洋公園イベント広場	2月上旬～ 2月下旬	紋別観光協会 0158-24-3900
留萌港	るもい呑涛まつり	留萌港港内他	8月上旬	同実行委員会（留萌市経済港湾課内） 0164-42-1840

港湾名	祭り等の名称	場 所	実施時期	主催／問合せ先
留萌港	うまいよ！るもい市	留萌市地方卸売市場	6月下旬、7月下旬、10月中旬、12月中旬	同実行委員会（留萌市農林水産課内） 0164-42-1837
増毛港	増毛町観光港まつり	増毛港周辺	7月下旬	同実行委員会（増毛町経済課内） 0164-53-1111
	増毛町秋味まつり	増毛港周辺（中央埠頭）	9月下旬	同実行委員会（増毛町経済課内） 0164-53-1111
羽幌港	はぼろ甘エビまつり		6月下旬	同実行委員会 01646-2-1211
	はぼろ花火大会	羽幌港・はぼろサンセットビーチ	7月中旬	羽幌町観光協会 0164-62-1211
焼尻港	焼尻めん羊まつり	焼尻港	7月上旬	羽幌町観光協会 0164-62-1211
天売港	日本一の味覚 天売ウニまつり	天売港周辺	7月下旬	羽幌町観光協会 0164-62-1211
天塩港	鏡沼しじみまつり	鏡沼海浜公園	7月上旬	天塩町企画商工課 01632-2-1001
	NJSBA 北海道フリースタイルチャンピオンシップ	天塩川河川公園	7月中旬	天塩商工会 01632-2-1045
	てしお川港まつり	天塩川河川公園	7月中旬、8月中旬	同実行委員会 01632-2-1045
	てしお味覚まつり	鏡沼海浜公園	9月中旬	天塩町企画商工課 01632-2-1001
稚内港	ノーザンロード・カーフェスティバル	稚内港北防波堤ドーム特設会場	7月中旬	NPO 法人 ノーザンロードカーイベント倶楽部 0162-24-2020
	稚内みなと南極まつり	稚内港北ふ頭地区（花火大会）	8月上旬	稚内市水産商工観光課 0162-23-6468
	最北端・食マルシェ	稚内港北防波堤ドーム	8月下旬	最北端・食マルシェ実行委員会
	日本海 VS オホーツク海 グルメバトル	稚内港北防波堤ドーム	9月中旬	同実行委員会（稚内観光協会内） 0162-24-1216
	南極ハイランド	稚内港北埠頭	2月中旬	稚内市観光交流課 0162-23-6468
	彩北わっきゃナイト	稚内市中央地区、北ふ頭地区	2月中旬	稚内みなとまちづくり懇談会 0162-22-5670
宗谷港	「はじまりの鐘」 & 「日の出 in てっぺん」	稚内市宗谷岬公園駐車場、宗谷岬神社境内	12/31～1/1	同実行委員会 0162-32-5580
枝幸港	枝幸かにまつり	枝幸町ウスタイベ干置岩	7月上旬	枝幸町観光協会 0163-62-1205
鷺泊港	北海島まつり	鷺泊港内（花火大会等）及び市街地	8月上旬	同実行委員会（利尻富士町産業建設課内） 0163-82-1114
鷺泊港 鬼脇港区	北海島まつり	鷺泊港鬼脇港区内	7月下旬	同実行委員会（利尻富士町産業建設課内） 0163-82-1114
沓形港	利尻浮島まつり	利尻町沓形市街地、仙法志市街地	8月上旬	同実行委員会（利尻町産業建設課内） 0163-84-2345
香深港	水産まつりうめーべや フェスティバル	香深港特設会場	7月中旬	礼文町役場産業課 0163-86-1001
	海峡まつり	礼文町内	8月中旬	同実行委員会 0163-86-1001
	雪あかりフェスタ	深港駐車場	2月中旬	同実行委員会（礼文町役場建設課内） 0163-86-1001



クルーズ船入港予定 (2013年)

※ 7月以降の入港予定を記載しています。

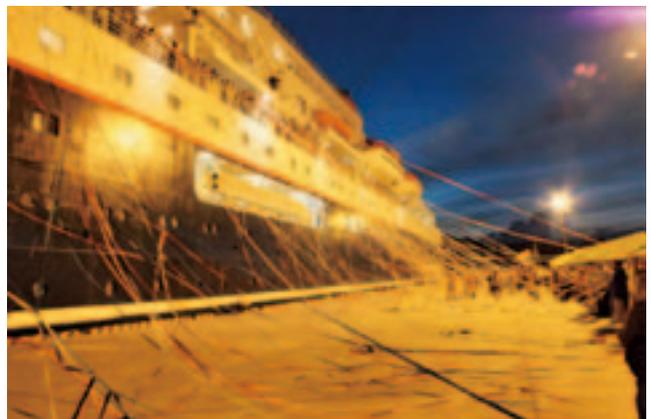
港名	入出港日時		船名
	入港	出港	
小樽港	7月19日(金) 6:00	7月19日(金) 18:00	サンプリンセス
	7月30日(火) 7:00	7月30日(火) 13:00	飛鳥II
	8月27日(火) 未定	8月27日(火) 18:30	にっぽん丸
	8月30日(金) 11:30	8月30日(金) 18:30	にっぽん丸
	9月2日(月) 11:30	9月2日(月) 18:30	にっぽん丸
	9月5日(木) 11:30	9月5日(木) 14:00	にっぽん丸
	9月8日(日) 9:00	9月8日(日) 17:00	にっぽん丸
	9月12日(木) 9:00	9月12日(木) 11:00	にっぽん丸
	10月15日(火) 7:00	10月15日(火) 19:00	ル・ソレアル
函館港	7月20日(土) 8:00	7月20日(土) 23:00	サン・プリンセス
	7月25日(木) 8:00	7月25日(木) 22:00	飛鳥II
	8月27日(火) 9:00	8月27日(火) 22:00	飛鳥II
	9月10日(火) 8:00	9月10日(火) 18:00	コスタ・ビクトリア
	9月27日(金) 8:00	9月27日(金) 18:00	シルバー・シャドー
	9月30日(月) 8:00	9月30日(月) 17:00	飛鳥II
室蘭港	7月12日(金) 7:00	7月12日(金) 18:00	サン・プリンセス
	9月11日(水) 16:00	9月12日(木) 21:00	ボイジャー・オブ・ザ・シーズ
	9月18日(水) 7:00	9月18日(水) 11:00	飛鳥II
	9月29日(日) 8:00	9月29日(日) 18:00	ダイヤモンド・プリンセス
苫小牧港	9月13日(金) 未定	9月13日(金) 17:00	飛鳥II
	9月17日(火) 15:00	9月17日(火) 未定	飛鳥II



飛鳥II (小樽港)



日本丸 (網走港)



日本丸 (十勝港)



ダイヤモンドプリンセス (室蘭港)

港名	入出港日時		船名
	入港	出港	
釧路港	7月16日(火) 7:00	7月16日(火) 17:00	サン・プリンセス
	9月7日(土) 9:30	9月7日(土) 21:00	ばしふいっく びいなす
	10月24日(木) 8:30	10月24日(木) 16:00	飛鳥II
網走港	9月10日(火) 9:00	9月10日(火) 15:30	にっぽん丸
稚内港	7月28日(日) 6:00	7月28日(日) 17:00	飛鳥II
利尻島 沓形港	8月28日(水) 8:00	8月28日(水) 17:30	にっぽん丸
	8月31日(土) 8:00	8月31日(土) 17:30	にっぽん丸
	9月3日(火) 8:00	9月3日(火) 17:30	にっぽん丸
	9月9日(月) 8:00	9月9日(月) 17:00	にっぽん丸
礼文島 香深港	9月11日(水) 8:00	9月11日(水) 17:00	にっぽん丸



ばしふいっくびいなす (沓形港)



ばしふいっくびいなす (香深港沖)

■ 平成 25 年度 漁港漁村の各地域のイベント情報

北海道内の各漁港地域では魅力的な各種イベントが開催されています。

※ 7月以降のイベント情報を記載しております。

月	イベント内容
7月	厚岸地域「厚岸港まつり」(7月5日)
	厚岸地域「厚岸町町民花火大会」(7月5日)
	厚岸地域「厚岸夏まつり」(7月6～7日)
	室蘭市「追直漁港 M ランド供用記念イベント」 (7月13日)
	古平地域「漁協祭」(7月21日)
	奥尻地域「室津祭」(7月13～14日)
	サロマ湖地域「ゆうべつ大漁みなとまつり」 (7月20～21日)
	苫前地域「北海道風車祭り」(7月27日)
	せたな大成地域「がっぱり海の幸フェスタ in わった めがして大成」(7月27日予定)
	礼文地域「うめーべやフェスティバル」 (7月中旬予定)
	福島地域「海峡横綱ビーチ海開き」 (海水浴期間 7月20日～8月18日)

月	イベント内容
7月	福島地域「第3回海峡横綱ビーチマリニフェスタ (ビーチバレー大会&ビーチフラッグ大会)」 (7月28日)
8月	利尻地域「利尻浮島まつり」(8月5～6日予定)
	福島地域「第27回やるべ福島 イカまつり」 (8月13日)
	せたな大成地域「久遠みなとまつり」(8月14日予定)
	東浦、抜海地域「WAKKANAI みなとコンサート」 (8月中旬予定)
	礼文地域「海峡まつり (香深地区)」(8月上旬予定)
	新ひだか町「第7回新ひだか夏祭り三石漁港花火大会」 (8月15日)
	根室地域(歯舞)「歯舞こんぶ祭り」(8月25日予定)
	寿都地域「寿都漁港納涼花火大会」(8月中旬)
利尻地域「飲むべや喰うべやフェスティバル」 (8月下旬予定)	

月	イベント内容
8月	ウトロ地域「オホーツクサーモン直売会（青年部）」（8月上旬予定）
	ウトロ地域「ほっき貝即売会」、「オホーツクサーモン即売会」（8月予定）
9月	登別・白老地域「登別漁港まつり」（9月7～8日）
	根室地域「2013 根室かに祭り」（9月7～8日）
	羅臼地域「漁火まつり」（9月21～22日）
	砂原地域「さわらふるさとまつり」（9月5日予定）
	古平地域「漁協祭」（9月23日）
	松前江良地域「マグロ祭り」（9月21～22日）
	根室地域「第21回根室さんま祭り」（9月21～22日）
	ウトロ地域「しれとこ産業まつり」（9月22日）
	雄武地域「『雄武の宝』うまいもんまつり」（9月最終日曜日予定）
	サロマ湖地域「北見地産地消フェスタ2013」（9月上旬）
	サロマ湖地域「湧別町産業まつり」（9月下旬）
	抜海地域「保食神社祭」（9月下旬予定）
	厚岸地域「あっけし産業感謝祭」（9月予定）
	サロマ湖地域「2013 サロマ大収穫祭」（9月30日）

月	イベント内容
9月	大津地域「女性部のサケの直販」（9月中の毎週金土日と祝日）
10月	厚岸地域「あっけし牡蠣まつり」（10月5～14日）
	室蘭市「追直漁港さかなの港町同窓会」（10月5日）
	大津地域「ししゃもフェア」（10月下旬～11月上旬）
	様似町「さまに地場産フェア」（10月第27日予定）
	ウトロ地域「町民収穫感謝祭」（10月上旬予定）
	寿都地域「大漁豊漁ホッケ祭り」（10月中旬）
11月	サロマ湖地域「湧別かきまつり」（11月中旬）
	サロマ湖地域「秋のサロマ湖まつり」（11月予定）
12月	大津地域「第10回大津港大漁まつり」（12月1日）
	サロマ湖地域「ところ物産まつり」（12月上旬）
	遠別地域「年末大売り出し」（12月9日予定）
	大津地域「十勝海のうまいもんまつり」（12月15日）
	ウトロ地域「漁師の即売会」（12月予定）
2月	ウトロ地域「オーロラファンタジー」（2月上旬～3月下旬）
	苫前地域「北海道風あげ大会」（2月23日）
	厚岸地域「カキDEござ〜る」（2月予定）



健康管理、ストレス解消方法として、ウォーキングを楽しまれている方は多いかと思います。私も、夏は市街地の散策や豊平川のサイクリングロードの散歩と、週に1度か2度汗をかいています。

冬は歩道に雪があり足元が悪いこと、気温が低く風

が冷たいことから、大通り地下街をホームロードにしています。人通りの少ない早朝に地下テレビ塔から、地下鉄すすきの駅、すすきの駅からテレビ塔と2往復程度歩いています。平成23年4月の札幌駅前地下歩行空間が開通してからは、テレビ塔をスタートにすすきの駅、地下歩行空間を通り、札幌駅を通り越し合同庁舎付近まで、帰りは来た歩行空間を経由して、テレビ塔までの約1時間、新ルートを楽しんでいるところですが、今年は春が遅く6月上旬まで地下人でした。

私を見るかぎり、年配者の方を中心にトレーニングウェア姿の、地下人が増えている感じです。

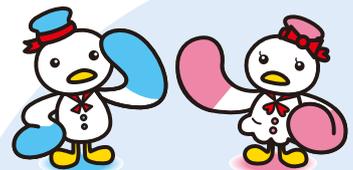
4月上旬の北海道新聞の「札幌モノログ紀行2」に、札幌の中心部は地下帝国、こんなに地下街の発達した地方都市は全国でも珍しいと書かれていました。

又、数年前から気にかかっている場所があります。JRで千歳方面へ向かう途中にエルフィンロードと書かれた看板が車窓から目にはいります。これも北海道新聞の記事ですが、旧国鉄千歳線の線路跡地を北海道が整備し、JR北広島駅と白石区のコンベンションセンターの19.7キロがつながっています。その内の北広島市内8.1キロの愛称をエルフィンロードと呼ぶそうです。

何となく情報が入り気に掛っていた道で、少しは脚力のある内に挑戦して見たいと思っていますが未だ思い倒れです。今年こそ挑戦しようと思っていますが、人気テレビCMのあの言葉が思い浮びます。

「いつやるか？ 今でしょう！」

(T. M)



港のたより VOL.105

2013年7月30日

(一社)寒地港湾技術研究センター
〒001-0011

札幌市北区北11条西2丁目2番17号

セントラル札幌北ビル5階

TEL(011)747-1688

FAX(011)747-0146

<http://www.kanchi.or.jp>